



はちじょう 2015

東京都八丈町勢要覧 HACHIJO 2015





八丈島の概要

八丈島は東京の南方海上287kmに位置し、面積69.09km²のひょうたん型をした島です。地形的には富士火山帯に属する火山島であり、南東部を占める三原山（700.9m）と北西部を占める八丈富士（854.3m）から成り立っています。集落は、島の南東部に位置する三原山を中心とする檜立・中之郷・末吉で形成される坂上地域と、島の経済活動の中心地である大賀郷・三根で形成される坂下地域があります。

また八丈小島は、八丈島の北西7.5kmの海上にあり、島のほぼ中央にあたる大平山（616.8m）から成る面積3.07km²の火山島ですが、昭和44年6月に全員離島し、現在は無人島です。

気候は黒潮暖流の影響を受けた海洋性気候を呈し、年平均17.8℃、高温多湿で雨が多いのが特徴です。国勢調査の人口は昭和35年11,818人、同40年11,315人、同45年10,316人、同50年10,318人、同55年10,244人、同60年10,024人、平成2年9,420人、同7年9,476人、同12年9,488人、同17年8,837人、同22年8,231人です。産業は農業（花き観葉植物栽培）と沿岸漁業を基盤としています。商工では焼酎やくさや加工、伝統的工芸品の本場黄八丈織などのほか、各種の観光関連サービス業が中心となっています。



SUMMARY OF HACHIOJIMA

Hachijo-jima is located in the Pacific Ocean 287km south of Tokyo. It is a gourd-shaped island with an area of 69.09km². It is a volcanic island belonging to the Fuji volcanic zone, consisting of Mt. Mihara (700.9m) in the southeast and Hachijo Fuji (854.3m) in the northwest.

The town is divided into "Sakaue" and "Sakashita" areas, with Sakaue encircling Mt. Mihara and containing the Kashitate, Nakanogo, and Sueyoshi communities, while Sakashita is the economic hub of the island, including the communities of Okago and Mitsune.

Hachijo Kojima, a small volcanic island, lies 7.5km northwest of Hachijo-jima. With Mt.Otaira(616.8m) in its center, it has an area of 3.07km² and a circumference of 8.7km. All residents were relocated from the island in June 1969, and it remains uninhabited.

Bathed by the warm Kuroshio(the Black / Japan Current), Hachijo-jima boasts an average annual temperature of 17.8°C. The climate is characterized by high temperatures, high humidity, and abundant in precipitation.

The population is slowly decreasing, with census figures showing 11,818 peoples in 1960 ; 11,315 in 1965 ; 10,316 in 1970 ; 10,318 in 1975 ; 10,244 in 1980 ; 10,024 in 1985 ; 9,420 in 1990 ; 9,476 in 1995 ; 9,488 in 2000 ; 8,837 in 2005 ; 8,231 in 2010.

Main industries are agriculture (horticulture) and coastal fishing. Local businesses produce Shochu (distilled spirits), Kusaya, and Kihachijo (silk) woven handicrafts. Various kinds of service enterprises that are related to the tourism, are also central of the island's economy.



町民憲章 ● TOWN CHARTER OF HACHIOJO-MACHI

青い海原に囲まれた緑の島山の美しい自然と、古い歴史に恵まれたわたしたちは、この八丈島に住むことを誇りとし、八丈町の限らない発展と、明るく平和な町づくりをすすめることを願い、町民ひとりひとりの道しるべとして、この町民憲章を定めます。

We, living on the Island of Hachijo, cannot help but feel fortunate in the bounty and beauty of our mountains, fields and sea. Coupled with the long history of our island, this natural legacy has engendered civic pride and a determination to pursue the development of a bright, peaceful community. It is in this spirit that we have formulated a Town Charter for Hachijo-machi. It will, we trust, serve as a reminder of our community's goals.

わたしたち八丈町民は

- 郷土を愛し、環境をととのえ、みどり豊かな町をつくりましょう。
- お年寄りを大切にし、子供たちが健やかに育つ、あたたかい町をつくりましょう。
- 伝統をととび、教養を深め、文化の香り高い町をつくりましょう。
- はたらくことを喜び、産業の発展につくし、いきいきとした町をつくりましょう。
- きまりを守り、互いに助け合い、人情味あふれる明るい町をつくりましょう。

We the people of Hachijo-machi

- Will strive to create a verdant community by respecting our heritage and preserving the natural environment.
- Will strive to create human community by caring for the elderly and rearing healthy children.
- Will strive to create flourishing community by maintaining our traditions and widening our cultural horizons.
- Will strive to create stimulating community by finding satisfaction in our work and pursuing new opportunities.
- Will strive to create heartwarming community by meeting our responsibilities and readily lending assistance.

町のシンボル



この紋章は「躍進八丈」の意義を表現しています。八丈の文字をそのまま鳥形に意匠することにより、八丈が希求する永遠の平和と未来永劫やむなき進展とを象徴したものです。(昭和32年10月制定)

This emblem symbolizes the rapid development of Hachijo. Arranging the characters for Hachijo into the shape of a bird expresses the desire for both everlasting peace and continuous development of the town. (design adopted October 1957)

町の鳥／アカコッコ

日本特有の美しいツグミの一種で伊豆諸島とトカラ列島だけに生息します。翼長平均12センチほどのかわいらしい小鳥で、広葉樹林などに巣を作り、昆虫や木の実などを好んで食べます。

TOWN BIRD / Akakokko

A type of thrush indigenous to Japan, it lives only on the Izu islands and Tokara islands. It is a small, pretty bird with an average wingspan of 12cm; it nests in broad-leaved trees and eats insects, fruits, and berries.



町の花／ストレチア

南アフリカ喜望峰が原産地で、学名をストレチア・レギネといいます。ばしょう科に属し、花は葉のつけねから極めて優美華麗な長い花茎を出し、その花の形から“極楽鳥”を連想します。

TOWN FLOWER / Strelitzia Reginae

Originating around South Africa's Cape of Good Hope, it belongs to the plantain family. From the axil it puts out a long-stemmed flower of graceful, splendor, the shape of which gives us its common "bird of paradise".



町の木／フェニックス・ロベレニー

和名は“しんのうやし”で、原産はインドシナ。八丈島では大正5年に雌雄2本を移入したのがはじめて、太平洋戦争で一時中断しましたが、戦後、花き園芸が復興するなかで、文字通り「不死鳥」のようによみがえり、世界でも有数の栽培地となりました。

TOWN TREE / Phoenix roebelenii O' Brien

Known in Japan by the name SHINNO YASHI, the tree itself originated in Indochina. Cultivation on Hachijo-jima began in 1916 with the introduction of a pair of male and female trees. Production was interrupted by WWII, but the postwar revival of the floriculture industry saw cultivation of phoenix roebelenii reborn, like the name of the phoenix itself. Hachijo-jima is now one of the world's leading producers of Phoenix roebelenii.



町の魚／ハマトビウオ

八丈島では「ハルトビ」と呼ばれており、ハルトビ漁は、明治時代から盛んに行われ、羽根のあるおめでたい魚とされ、食べられてきました。ハルトビは鮮魚のほか、塩干し、くさや、燻製などに加工され、土産品として珍重されています。春先になると、産卵のため伊豆諸島南方から島伝いに北上することから、別名「春告魚」ともいわれ、八丈島周辺への回遊も多く、漁獲高でも八丈島漁業の重要な地位を占めています。

TOWN FISH / Hamatobiuo (Flying Fish)

Popular since the Meiji Era, Hamatobiuo, which its name goes by Harutobi as a dialect in Hachijo, adorned shop counters as a fish for auspicious occasion. Aside from being used fresh, it is also dried and smoked, being especially prized as a souvenir. Its popular name "Harbinger of spring", comes from the fact that every year in early spring the fish migrate northwards through the Izu islands in order to spawn. The fish is most prevalent around Hachijo-jima, and it occupies a dominant place in the local fishing industry.



町歌

町民のみなさんに末永く愛され、八丈町を元気づけるという願いを込めて、「手作りの町歌」をテーマに町制施行60周年を記念して作られました。

歌詞とメロディーは公募によって寄せられた作品から選考を行い、記念式典で大賀郷中学校音楽部とシンガーソングライターのエポさんが最終候補曲2曲を披露し、参加者による人気投票で八丈町の歌が誕生しました。

八丈町歌（八丈町の歌）

作詞 保岡直樹
作曲 高橋一美
編曲 佐久間ともか

碧い宇宙に抱かれて
 恵み豊かな海と島
 燃える太陽 育むいのち
 心やすらぐ わが郷土
 希望と笑顔に 満ちあふれ
 しあわせ彩る 八丈町よ
 緑さわやか フェニックス
 花は優美な ストレチア
 紡ぐ歴史に 綾なす文化
 まねく旅人 湯の香り
 大空みあげて アカコッコ
 平和を奏でる 八丈町よ
 熱い鼓動を はずませて
 夢が燦めく 風と波
 ごらん元気に 羽ばたく魚
 虹を描いて 春を呼ぶ
 力を合わせて たくましく
 未来へ躍進 八丈町よ

町歌選考経過

平成26年

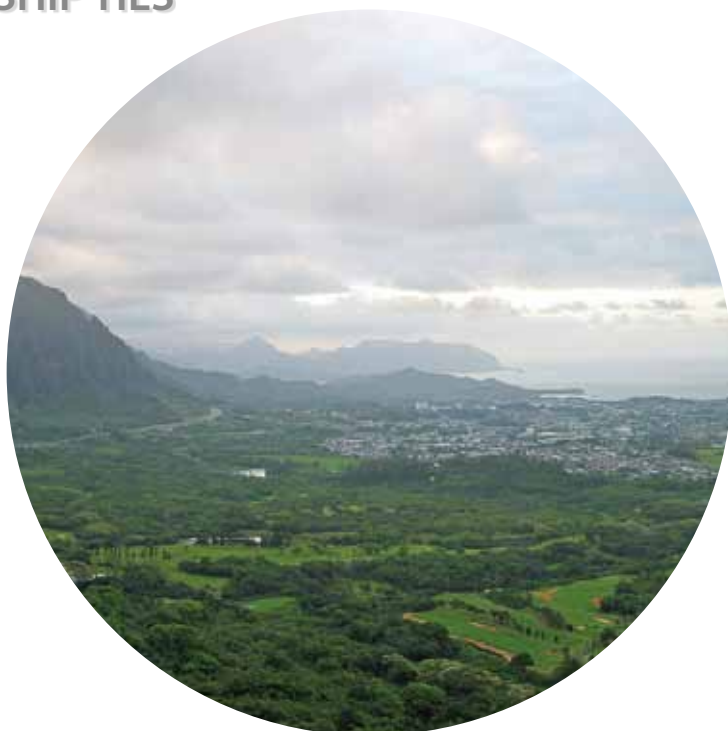
- 2月 21日 第1回「町歌」選考委員会開催（実施計画策定等）
- 3月 「町歌」歌詞募集（応募総数36作品）
- 4月 30日 第1回ワーキング開催（候補歌詞4作品の決定）
- 5月 19日 候補歌詞4作品の人気投票
第2回「町歌」選考委員会開催（歌詞の決定）
- 6月 「町歌」曲募集（応募総数16作品）
- 7月 10日 第2回ワーキング開催（候補曲4作品の決定）
- 8月 候補曲4作品の人気投票
- 9月 18日 町立小・中学校、都立八丈高校および老人クラブ代表による好感度調査
第3回「町歌」選考委員会開催（候補曲2作品の決定）
- 11月 1日 八丈町町制施行60周年記念式典において2作品を発表
最後の人気投票を記念式典で行い、決定（「町歌」発表）
- 12月 8日 八丈町議会定例会において、八丈町歌制定議案が可決され、同日告示し、八丈町歌として指定（施行：平成27年1月1日）



姉妹都市

ハワイ州・マウイ郡

日本のハワイと呼ばれた「八丈島」と、溪谷の島「マウイ島」が、美しい永遠の友情を築き、世界平和に貢献しようという理念の元、姉妹都市提携の調印式が昭和39年8月10日マウイ島において行われました。以来、今日まで双方の交流が盛んに行われています。



沖縄県南大東島

八丈島民が開拓に成功した南大東島と昭和57年1月23日に姉妹島提携を結びました。

1月23日は八丈島からの開拓者が上陸の一步を印した記念日で、南大東島には八丈島にゆかりのあるものが多く残っています。

姉妹島

友好都市

東京都小笠原村

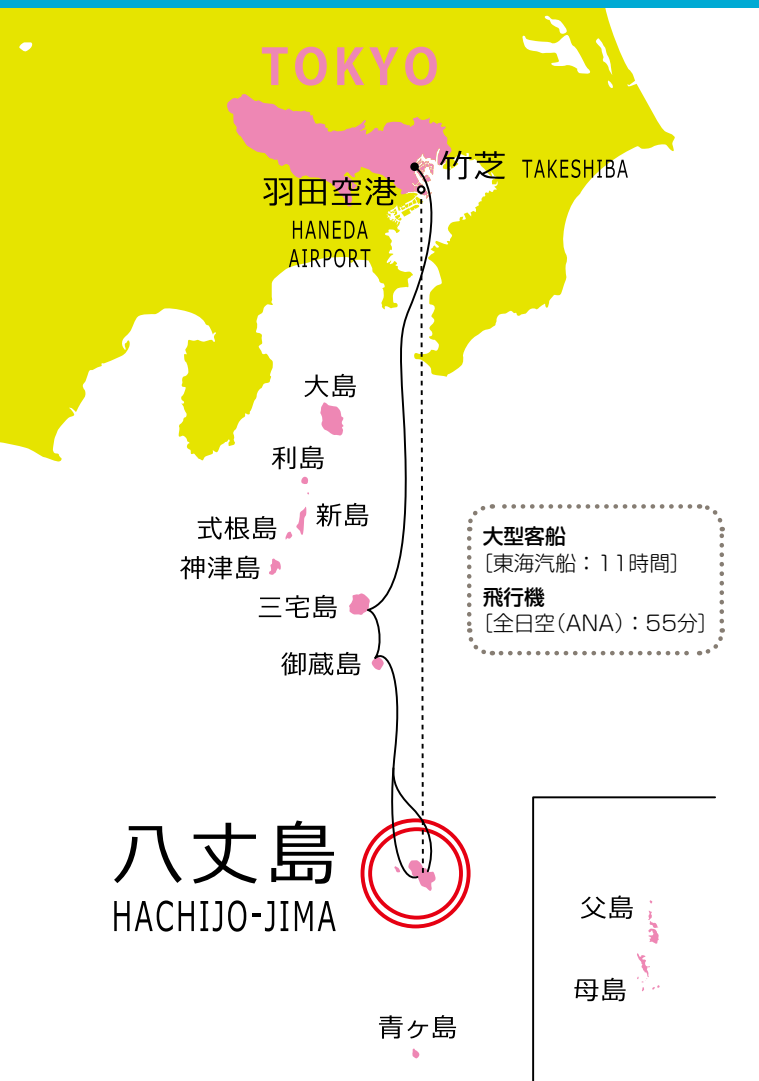
小笠原諸島返還記念日の昭和63年6月26日に八丈町と小笠原村とが友好都市提携を結びました。また、毎年6月には八丈町からの小笠原親善訪問も行われています。



島への交通 ● GETTING TO HACHIJO

八丈島への空路は、東京・羽田空港より全日空のジェット機エアバス320型機（166席）とボーイング737-800型機（166・167席）が約55分で結んでいます。また、東京愛らんどシャトルが八丈島を基地にして青ヶ島、御蔵島、三宅島、利島、大島とアクセスしています（毎日就航）。海路は、東海汽船の大型客船「橘丸」が東京・竹芝桟橋から毎日就航しています。竹芝を夜に出発し、三宅島・御蔵島を経由して約11時間で八丈島に到着します。

By the air route, Hachijo island, can be arrived from Tokyo Haneda Airport within 55 minutes boarding either on ANA airbus A320 (166seats) or Boeing 737-800 (166-167seats). Also, the access to Hachijo's neighboring islands, Aogashima, Mikurajima, Miyakejima, Toshima, and Oshima, is provided every day by the Tokyo Island Shuttle helicopter. By the sea route, the Tokai Kisen Ferry, Tachibana-maru sails daily from the Takeshiba passenger terminal in Tokyo. Departing from Takeshiba, the ferry takes 11 hours to get to Hachijo, calling at Miyakejima and Mikurajima on the mid-way to the island.



八丈島海路の沿革

1910 (明治43年)	東京湾汽船会社と八丈島有志代表浮田鉄吉氏、山田喜代吉氏が毎月1回以上の航海契約を結び(芙蓉丸96トン)
1922 (大正11年) 5月	八丈丸 (345トン) 三宅島・八丈島就航
1925 (大正14年) 4月	八丈丸、三根沖で暴風雨のため遭難沈没(船員13名死亡)
1926 (昭和元年) 4月	三宅島・八丈島、東京府知事の命令航路となる
1930 (昭和5年) 10月	東京から八丈島寄港、小笠原父島・母島に至る定期航路開始。主として桐丸(531トン)が就航
1941 (昭和16年)	戦時下、桐丸の月6回の就航が萩丸月3回の就航になる
1945 (昭和20年)	戦時下、4月16日東光丸撃沈される(約120名死亡)
1947 (昭和22年) 6月	黒潮丸(496トン)東京-八丈島間就航
1948 (昭和23年) 3月	第3旭丸、八丈島藍ヶ江港で遭難
1957 (昭和32年)	東海汽船八丈島代理店を直営に切り替え、八丈島支店を設置
1965 (昭和40年) 8月	神湊港底土岸壁完成、年間通して約90%の接岸が可能となる
1968 (昭和43年) 10月	貨物船弥栄丸(330トン)三宅島・八丈島間に就航
1971 (昭和46年) 6月	ふりいじあ丸(2,286トン)が就航
1978 (昭和53年) 4月	すどれちあ丸(3,708トン)が就航
1983 (昭和58年) 3月	ふじしま丸(149トン)八重根港入港
2002 (平成14年) 5月	さるびあ丸(4,973トン)が就航
2012 (平成24年) 2月	八重根港船客待合所供用開始
2014 (平成26年) 6月	橘丸(5,681トン)が就航
2014 (平成26年) 7月	神湊港(底土)船客待合所供用開始

八丈島空港の沿革

1953 (昭和28年)	青木航空就航(不定期)
1954 (昭和29年) 5月	飛行場開設、青木航空セスナ機就航
1955 (昭和30年) 4月	日本ヘリコプター輸送(株)の双発機(11人乗)週2回就航
1956 (昭和31年)	青木航空が日本遊覧航空と社名変更 日本ヘリコプター輸送(株)の双発機(11人乗)週4回就航
1957 (昭和32年) 12月	日本ヘリコプター輸送(株)が全日本空輸(株)と社名変更
1958 (昭和33年) 12月	八丈島空港(第3種空港)設置許可
1959 (昭和34年)	日本遊覧航空のヘロン機(15人乗)が就航するようになり、初めて客室乗務員が乗るようになる
1960 (昭和35年) 6月	全日空DC-3型機(30人乗)週2回就航 日本遊覧航空のヘロン機が名古屋へ就航
1961 (昭和36年)	日本遊覧航空が藤田航空と社名変更
1962 (昭和37年) 5月	八丈島空港供用開始
1963 (昭和38年) 8月	藤田航空ヘロン機、八丈富士に激突19名死亡
11月	藤田航空、全日空と合併し、八丈空路は全日空の運行となり、フレンドシップ機(40人乗)就航
1969 (昭和44年) 4月	YS-11型機(64人乗)就航
1972 (昭和47年) 6月	滑走路延長1,200mから1,500mへ供用開始
1973 (昭和48年) 3月	名古屋定期路線開始
1975 (昭和50年) 12月	第2次拡張計画決定
1982 (昭和57年) 4月	滑走路1,800m×45m供用開始 B737型機(126人乗)就航、ターミナルビル供用開始
1985 (昭和60年) 5月	エア・ニッポンにYS-11型機路線移管 11月30日をもって名古屋定期路線休航
1988 (昭和63年) 4月	エア・ニッポンにB737型機路線移管
1989 (平成元年) 8月	ヘリコプター第1回試験運行(8/12~8/19)
7月	八丈島-東京間のジェット化促進
1993 (平成5年) 7月	ヘリコプター運航管理事務所及び格納庫完成
8月	ヘリコプター運航開始
2000 (平成12年) 7月	B737-400型機(170人乗)就航
2004 (平成16年) 10月	滑走路2,000m供用開始
2005 (平成17年) 10月	エアバス320型機(166人乗)就航
10月	大島経由便運行
2009 (平成21年) 10月	大島経由便廃止
2012 (平成24年) 10月	B737-800型機(166・167人乗)就航

花と緑と温泉の島



ハイビスカス

～島を原色に彩る
四季の花々～



アロエの花



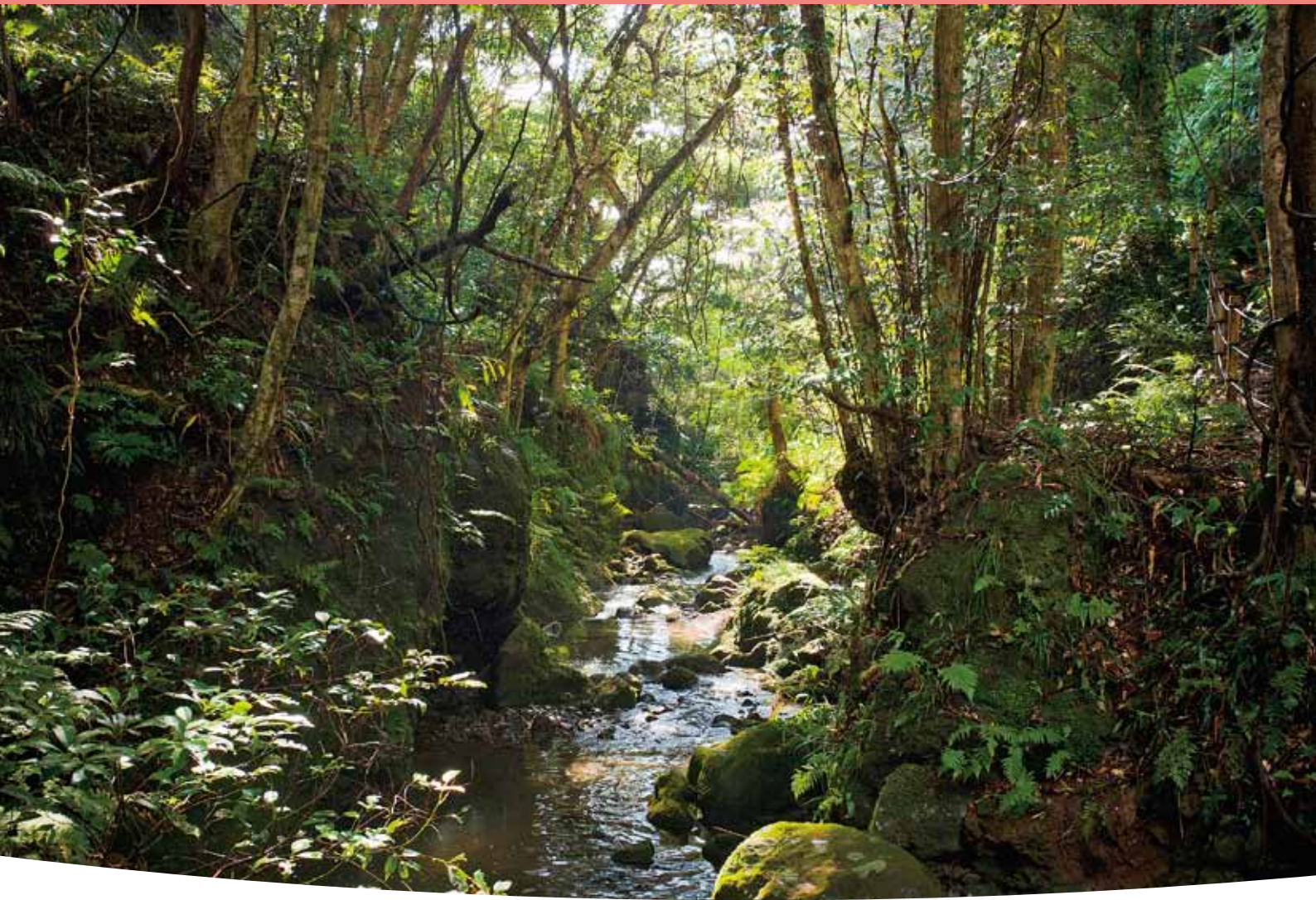
フリージア



アガパンサス



フリージア



～全ての生き物にやさしい
緑の楽園～



あしたば

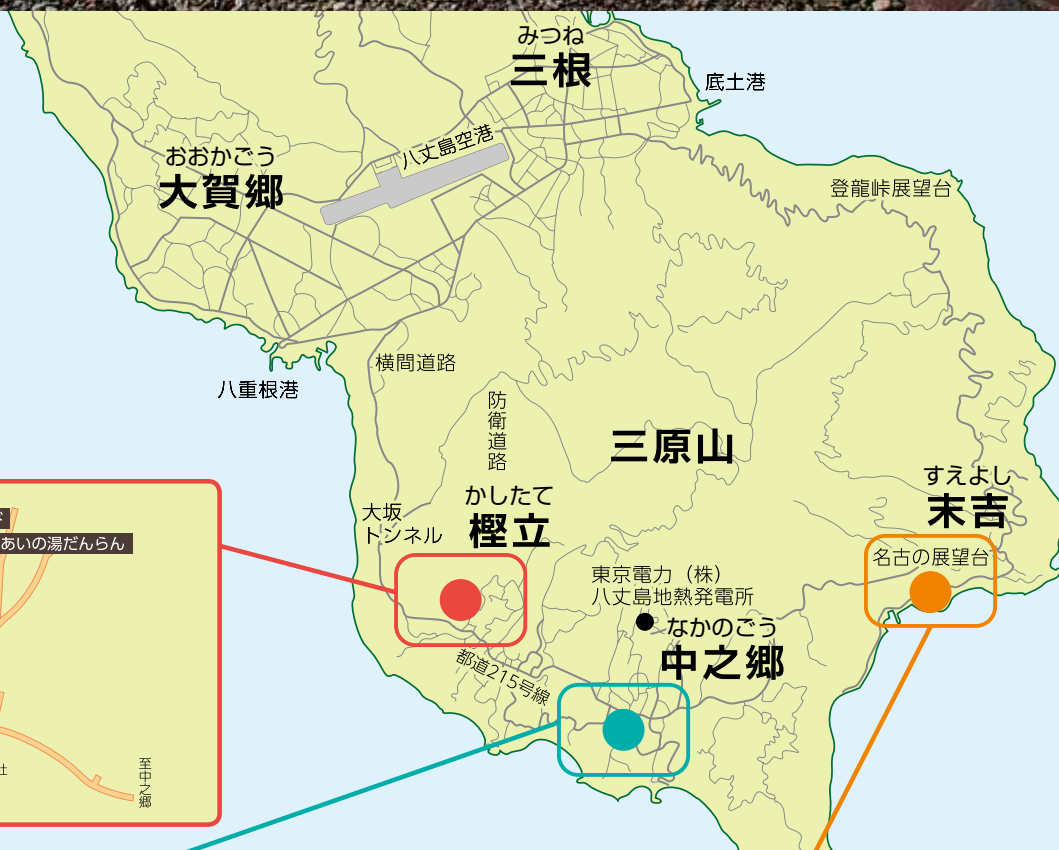


モンステラ

心と体を癒やす地球の恵み 温泉



温泉 MAP



A 檜立向里温泉 ～ふれあいの湯～



毎日利用する人に「自分の家の風呂には入れないよ」と言わせてしまうほど人気があります。建物は八丈島の杉や檜を使用しており、総檜造りの大浴場と露天風呂を備えています。平成22年4月に、新源泉に切り替えました。

源泉名：檜立向里温泉
 泉質：ナトリウム 一塩化物強塩温泉
 時間：午前10時～午後10時(入場は午後9時30分まで)
 定休日：月曜日(休日の場合は営業)
 料金：大人300円
 小学生100円
 八丈町に住所を有する70歳以上の方 100円

B 中之郷温泉 ～やすらぎの湯～



海の展望を活かした温泉浴場。浴槽からの眺めは黒潮の海を一望できるとあって「お湯よし、眺めよし、料金よし」と三拍子揃っている温泉として人気を集めています。空気の澄んだ天気の良い日は、お湯につかりながら67km先の青ヶ島を見ることもできます。

源泉名：中之郷温泉
 泉質：ナトリウム 一塩化物温泉
 時間：午前10時～午後9時(入場は午後8時30分まで)
 定休日：木曜日(休日の場合は営業)
 料金：大人 300円
 小学生 100円
 八丈町に住所を有する70歳以上の方 100円

C ブルーポート・スパ ザ・BOON



“ザ・BOON”とはお客様に「ざっぶーん」とお風呂に入って、ゆっくりと温泉を楽しんでもらいたいという思いを込めて名付けられました。設備が充実しており、サウナ室、水風呂、打たせ湯やジャグジーが完備されています。

源泉名：中之郷尾越温泉
 泉質：ナトリウム 一塩化物強塩温泉
 時間：午前10時～午後9時(入場は午後8時30分まで)
 定休日：水曜日(休日の場合は営業)
 料金：大人 700円 小学生 300円
 レンタル料金：バスタオル 100円
 アロハシャツ(男性用) 200円
 ムームー(女性用) 200円

D 中之郷尾越温泉 ～裏見ヶ滝温泉～



緑に囲まれた谷あいになり、滝を見下ろしながら入浴ができる野趣あふれる露天温泉。男女混浴のため、水着の着用が必要で、せっけん・シャンプーなどは使用できません。中之郷自治会が管理運営をしており、温泉スタンドも併設されています。

源泉名：中之郷尾越温泉
 泉質：ナトリウム 一塩化物強塩温泉
 時間：午前10時～午後9時
 定休日：年中無休
 料金：裏見ヶ滝温泉・温泉スタンド 無料

E 足湯きらめき



藍ヶ江港の高台にあり、眼下に大海原を望みながら足をつければ気分爽快。また、1月頃には水平線に沈む夕日も楽しめます。「きらめき」の名称は、藍ヶ江のきらめいた海のイメージから名付けられました。この温泉は「ナトリウム一塩化物温泉」で、神経痛や関節痛、冷え症などに良いとされています。

源泉名：中之郷温泉
 泉質：ナトリウム 一塩化物温泉
 時間：午前11時～午後9時
 定休日：年中無休
 料金：無料

F 末吉温泉 ～みはらしの湯～



開放感あふれる露天風呂や展望風呂が魅力の温泉。太平洋の大海原を見渡せる絶景地にあり、夜は満天の星空を眺めながらゆったりと入浴することができます。偶数日と奇数日で男湯と女湯が入れ替わり、それぞれ違った眺望を楽しむことができます。また、湯船からご来光が望める、元旦の初日の出臨時営業も好評です。

源泉名：末吉かん沢温泉
 泉質：ナトリウム 一塩化物強塩温泉
 時間：午前10時30分～午後9時30分(入場は午後9時まで)
 定休日：火曜日(休日の場合は営業)
 料金：大人 500円 小学生 200円
 八丈町に住所を有する70歳以上の方 200円

G 洞輪沢温泉



末吉自治会が管理運営している温泉で、風光明媚な洞輪沢漁港に隣接し、泉質は他の温泉と異なります。手軽に楽しめる温泉の元祖として広く親しまれています。サーフィンのメッカ汐間海岸の近くとあってサーファーの利用も多いのが特徴です。この温泉ではせっけん・シャンプーなどは使用できません。

源泉名：洞輪沢温泉
 泉質：カルシウム・ナトリウム 一炭酸水素塩・塩化物・硫酸塩温泉
 時間：4月～9月 午前9時～午後9時
 10月～3月 午前9時～午後8時
 定休日：月曜日
 料金：無料

(※平成26年10月より営業休止中)

※時間・定休日及び料金は平成28年3月時点の情報です。

クリーンアイランドを目指す町 ～クリーンエネルギーのモデル島を目指して～

時には八丈島に過酷なほどに大きな被害をもたらす強大な自然エネルギーは技術革新によって、

今やこの島に無限の恩恵をもたらす可能性を秘めています。

地熱発電規模の拡大、熱を利用した産業振興など、地熱資源の活用を目指します。



八丈島地熱発電所

全国離島初、しかも東京電力（株）としても初めての地熱発電所が平成11年3月に運転を開始しました。地熱発電は出力を変化させることが難しいため、ベース電源（3,300kw）として運転を行い、八丈島の電力需要に合わせて既存のディーゼル発電機を追加運転させています。

Tokyo Electric Power Company : Hachijo-jima Geothermal Generator Site

In March 1999, for the first time on all remote island in Japan, let alone for Tokyo Electric Power Company, a geothermal generator was put into operation in Hachijo-jima. Since converting subterranean heat into electricity is difficult, the site will use 3300kw as a base in conjunction with an existing diesel generator to supply the electrical needs of the entire Hachijo-jima.



八丈島地熱館

平成25年8月よりリニューアルオープンしました。

地熱発電所の敷地内にあり、地熱発電とともに風力発電のしくみや八丈島の成り立ちや魅力を、映像や体験コーナーを通して知ることができます。



みどり豊かな町

～豊かな自然に包まれた快適生活空間～



ふれあい牧場



大湯浦園地

自然環境を大切に守り、
クリーンアイランドを念頭に、
生活文化、教育、社会福祉、
産業等の基盤整備を進め、
自然と調和した
みどり豊かな町づくりを
目指します。



きよん



クロアシアホウドリ



ザトウクジラ



ハマトビウオ



キンメダイ



アオウミガメ

八丈島の先人たちは
古くから広大な太平洋の領域に雄飛し、
その海は私たちに豊かな恵みを
与え続けてきました。
海洋の活用をさらに推し進め、
島の経済の活性化を目指します。

海洋を生かす町



フェニックス・ロベリニー



島酒



パッションフルーツ



くさや



黄八丈

いきいきとした町

産業を振興して地域経済を活性化していくことは、最も重要な課題のひとつです。

産業基盤の確立を図り、働くことに喜びのあるいきいきとした町づくりを目指します。



八丈フルーツレモン



ブックスタート

あたたかい町

「情け島」と言われてきた八丈島。
個性の違う人間同士がお互いに尊重し合い、助け合いながら「共に支え合う心」を福祉、保健、医療などすべての施策の基本とし、あたたかい町づくりを目指します。



保育園運動会



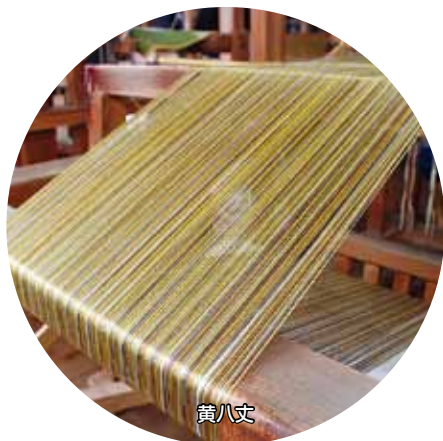
ひよんは一餅つき



両親学級



歯科健診



黄八丈

八丈太鼓や黄八丈に限らず、この島の各地に残る遺跡、伝承されてきた歴史は、すべて私たちのかけがえない財産です。歴史やそれにまつわる背景など、文化を探求すればするほど、島の貴重な財産としての価値がいっそう高まり、これを生かすことが、「地方の時代」における島の発展につながります。



大里の玉石垣



歴史民俗資料館



八丈太鼓

歴史を生かす町

文化の香り高い町



多目的ホール「おじゃれ」



多目的ホール「おじゃれ」



町立図書館



町民ギャラリー



島ことばかるた

生涯学習社会の実現を図るため、
学校教育、社会教育の振興に努め、
八丈島を誇りに思える
文化の香り高い町づくりを
目指します。



愛らんどリーグ

躍動する町



スポーツ合宿（サッカー）



南原スポーツ公園



運動会



愛らんどリーグ



パブリックロードレース

スポーツを通して得られる経験を大切にして、心と体を健やかに育む環境づくり。
健康の増進、ならびに親和を図ることが地域の活性化に繋がり、元気あふれる躍動する町づくりを目指します。



スポーツ祭東京「軟式野球」



住民が主役の明るい町



庁まつり（中之郷）



フリーズインフィオータ



総合戦略WG



防災訓練



議会



消防出初式（緑法大会）



遠泳大会



花火大会

「住民が中心になり、住民の力に基づき、住民の願いを実現する。」
住民と行政が一体となって地域の発展に取り組み、住民が輝ける明るい町づくりを目指します。



夏まつり

三つの始祖伝説



ふるさと村

八丈島には系統を異にする三種の始祖伝説がある。八十八重姫伝説は、出雲系神話の類型で北方から伝来した内地系文化に属する。徐福伝説は西方から黒潮に乗った大陸系文化が流入したものである。丹那婆伝説は、西太平洋の諸族に広く認められる母子交会の始祖伝説の一類型で南方系文化に脈絡が認められる。一つの島に内地形、大陸系、南方系の三種類の異なった伝説が存在することは、八丈島の位置に関連する特異な文化形成の礎があったと思われる。



八丈島誌

秦の徐福

秦の始皇帝が方術士徐福を東海に遣わし、不老不死の靈薬（仙丹）をもとめさせたという伝説がある。中国人渡来の伝説は古くから八丈島にあったものである。秦始皇帝の命を受けた徐福は、東海の島々を訪ねてまわったが、ついにその靈薬を手に入れることはできなかった。徐福は帰国を断念し、孝靈天皇紀元前219年に紀州熊野に着き、この地で生涯を終わったという。徐福に従って来た童男童女は、船に分乗し熊野から四散してふたたび漂流した。この船の一隻は八丈島に漂着したが、それには五百人の童女が乗っており、青ヶ島に漂着した一隻には五百人の童男が乗っていたという。これにより八丈島を女護島、青ヶ島を男島というと伝えている。〈八丈島誌〉



丹那婆の墓

八十八重姫

事代主命は三宅島（宮家島）に宮居を定められたがその地で崩じた。妃の一人、八十八重姫は八丈島に渡って古宝丸（許志岐）を生んだ。この二方が八丈島創始の祖であるといわれている。八十八重姫（優婆夷姫ともいう）を祀る優婆夷大明神と古宝丸も祀る宝大明神はともに大賀郷の大里にあり、延喜式に列せられた八丈総鎮守郷社である。〈八丈島誌〉



大里の玉石垣

丹那婆

この伝説を記録した最初の文献は、享和前後の書と推定せられる綜嶼新話である。「いずれの時にやありし、八丈島に沓潮おこりて民戸とも湮没せしが、一妊婦のみ舟の艫にすがりて、大岡郷川口ヶ洞に助命して、一男子を出生し、後に母子交会して類葉繁栄す。」と記してある。現在丹那婆の墓と称されるのは、末吉と大賀郷の二箇所にあるが、もとは三根にもあったようである。〈八丈島誌〉

主なできごと2015

● HEAD LINE 2015



平成27年 ミス八丈島

- 1/4 八丈町消防団出初式 (操法大会)
- 1/5 成人祝賀式
- 1/11 第34回八丈島パブリックロードレース (マウイ郡招待選手2名来島)
- 1/13 ~ 1/18 第26回八丈島文化フェスティバル
- 3/21 • 3/22 第25回八丈島産業祭
- 3/21 ~ 4/5 第49回フリージアまつり
- 4/1 八丈プラザ公園開園
- 4/4 • 4/5 フリージアインフィオラータ
- 6/7 クリーンデー
- 6/18 ~ 6/23 小笠原親善訪問 (海上不良のため寄港できず中止)
- 7/12 ~ 11/30 八丈町プレミアム商品券発行
- 7/23 ~ 7/25 第43回八丈島夏まつり (ミス八丈島発表会)
- 8/2 第19回八丈島浜遊び
- 8/9 第46回團伊玖磨記念 八丈島サマーコンサート
- 8/11 八丈島納涼花火大会
- 9/13 八丈町長選挙 (山下奉也氏が再選)
- 10/5 八丈町防災訓練 (中之郷屋内運動場)
- 10/11 第54回町民体育大会 (各地域)
- 11/19 八丈町表彰式
- 12/6 第19回八丈島高齢者演芸大会



パブリックロードレース マウイ招待選手



八丈プラザ公園



八丈町プレミアム商品券



東京都八丈町勢要覧
「はちじょう2015」

平成28年3月 印刷・発行

編集・発行：八丈町企画財政課企画情報係
東京都八丈島八丈町大賀郷2551番地2
電話 04996-2-1120
URL <http://www.town.hachijo.tokyo.jp/>

印刷：明誠企画株式会社
東京都武蔵村山市榎2-25-5
電話 042-567-6233 (代)